

# もう一つの発明

人工肛門保有者がシートベルトをしやすくするために開発



シートベルトガードクッション

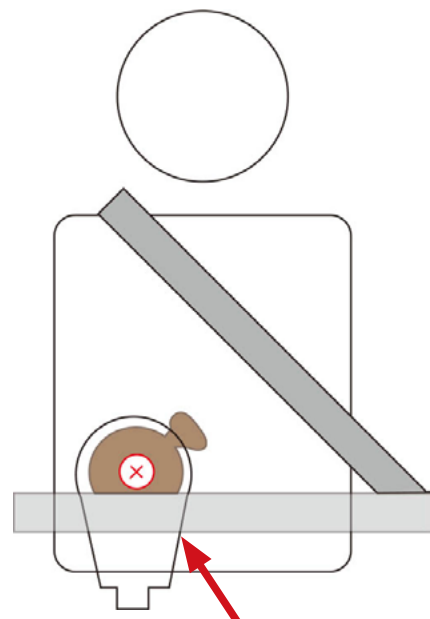
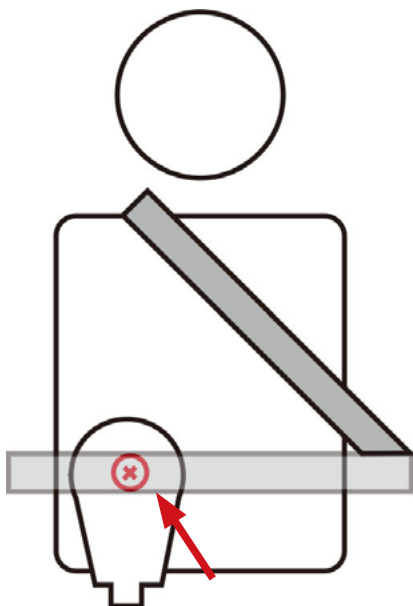
試行錯誤を繰り返している時の試作品



直接ストーマに当たる



パウチ（便袋）の流れを妨げ、漏れの原因になる



# 必要は発明の母

## 7 つ病気を持つ男 <https:// ストーマ.nagoya>

2012 年 3 月  
心臓バイパス手術



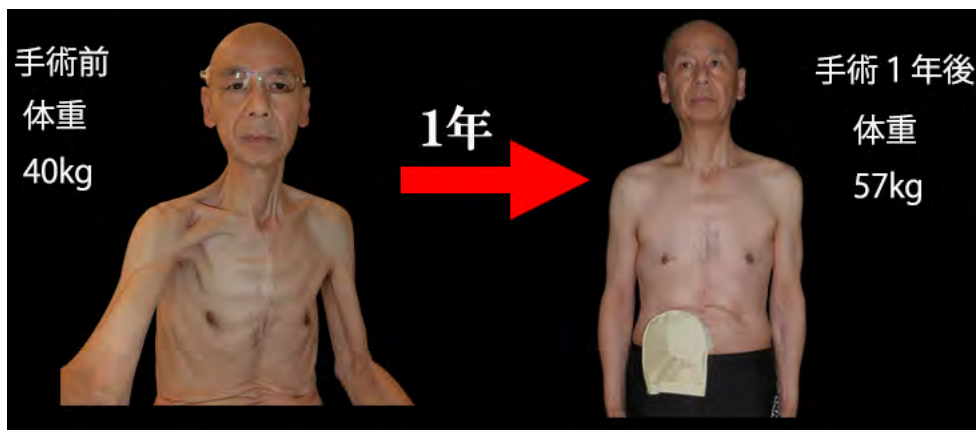
2012 年 5 月  
食道がん手術 ステージ 1B



2012 年 9 月  
静脈血栓から肺梗塞



2013 年 12 月  
潰瘍性大腸炎 10 年のち大腸全摘手術 永久ストーマ（人工肛門）になる



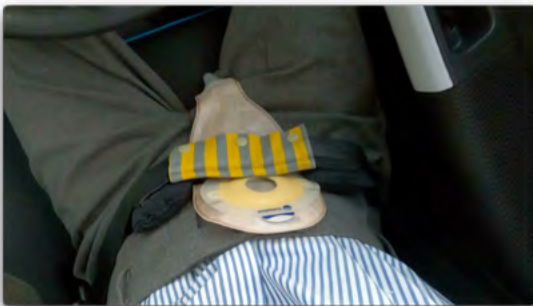
障害者  
4 級

病気は早期発見・早期治療ば命は落とさない  
疑わしきは精密検査で確認。

1. ドクター X は、いない。医者には、誤診、見落とし、をする。
2. 1 つの検査や画像診断だけでは、正しい診断はできない。
3. 科学的に問題ないと判断できるまで納得できる精密検査をする。
4. 「私は、大丈夫」と思わない。
5. 病気は医者と患者一緒に、見つけ、治療、自己管理をせよ。

オストメイト（人口肛門・人工膀胱保有者）のために  
あい工房と共同開発（2017年9月から販売）、  
同じ悩みを持つオストメイトのために  
特許申請は取得はしていません。

障害者を理由にシートベルトをしなくても良い理由にはならない。  
シートベルトは命を守るベルト、快適で使い易いものでなくてはならない。  
信念で作上げたシートベルト用ストーマガードクッションを開発



ストーマは再手術で作り直しは出来るが  
死んだら生き返らせることはできない  
命を守るシートベルト